

うちの学校紹介しまあ!

その10 石屋小学校



淡路の最北端、岩屋地区にある石屋小学校。校舎からは世界一のつり橋、明石海峡大橋と神戸の街並み、そして帰港する漁船をはじめ、行き交う多くの大型船も見られ、絶景が自慢です。

かつては1000名を超える児童が在籍していた本校も少子化の影響を受け、今は全校生190名になってしまいました。空き教室も多くなりましたが、各学年は30名前後と、にぎやかでパワフルなクラスばかり。校訓「直く正しくたくましく」のもと、全校生190名が毎日元気いっぱい学校生活を送っています。

「命・人権を大切にし、自ら学び、解決する意欲を持った子どもの育成」を本校の学

校教育目標として、「元気で自由なこれまでの校風に加え、より規律を守り自主性を育むためにはどんな取組が必要か？」を職員で話し合い、様々な取組にチャレンジしています。

① 石屋小学校五つの約束

毎年四月の全校集会で、「すんであいさつをしよう」など、「みんなで守る五つの約束」について話をし、全校生がそれらを意識して学校生活を送っています。

② 児童会活動

児童による主体的な学校運営を促すため、昨年度より児童会を発足させました。役員選挙を行い、立会演説・三年生以上の投票を経て役員が選出されます。二年目の今年度は、体育大会のスローガンを



異学年で仲良くフラフープリレー

作成したり、雨の日に紙飛行機大会を計画・実施したりと、より主体的な活動が見られるようになってきました。

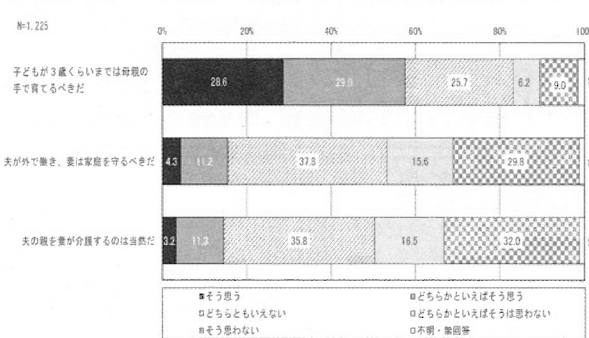
③ 道徳親子読書週間

「道徳」について、学校だけでなく、家庭でも一緒に考えてもらう機会を作るため、昨年度より学期に一回、「道徳親子読書週間」を設定しています。道徳の副読本等を持ち帰り、一緒に読んでもらい、簡単な感想を書いてもらいます。感想には、「大事なことを一緒に考える時間になった」「親子で一緒に本を読む時間が取れてうれしかった」等、親子での充実した時間になったようです。



6年生のリーダーとしてのがんばりをまとめました。

(図表10) 「家族に関わる見方や考え方」



淡路市の「人権意識調査」から

シリーズ⑥

テーマ

女性

じよせい

男女共同参画社会を目指して

平成27(2015)年12月25日に閣議決定された第4次男女共同参画基本計画では、目指すべき社会として、①男女が自らの意思に基づき、個性と能力を十分に発揮できる、多様性に富んだ豊かで活力ある社会、②男女の人権が尊重され、尊厳を持つて個人が生きることのできる社会、③男性中心型

労働慣行等の変革等を通じ、仕事と生活の調和が図られ、男女が共に充実した職業生活その他の社会生活及び家庭生活を送ることができる社会などをあげています。

図表10の「家庭に関わる見方や考え方」のグラフからは、淡路市民の考え方として、男性が主な稼ぎ手として外で働き、女性が無償の家事、育児、介護など家庭内の労働を担うという、男女による性別役割分業意識が残っており、若い世代においても支持する人も少なくないという結果が出ています。「男性はこうあるもの、女性はこうあるもの」というステレオタイプの社会意識とか慣行なども変えていかなければなりません。

平成28(2016)年の厚生労働省「賃金構造基本統計調査」によると、男性一般労働者の賃金を100とした時、女性一般労働者の賃金は73.0となっています。淡路市の調査でも、「女性が男性よりも給料や昇進で低い評価を受ける」ことを、6割以上の人が差別と捉えており、待遇格差も大きな課題です。

また、配偶者などの暴力(DV)をはじめ、職場などでのセクシュアル・ハラスメントなどの人権侵害の根絶に向けた取組も求められています。